



参加者の活躍で無事まつりを遂行

宮本氏子総代 須永敏行さん

今年は、より良いまつりにしようと、参加者や観客の立場になって、先達提灯の総町渡河や2・3日目の出だしを総町整列による出発にするなど新たな試みを実施しました。3日間、天候に恵まれたこともあり、例年になく大勢の観客が訪れました。

また阿武隈川河畔のかがり火も前回同様実施され、川面に映る先達と神輿の提灯の光と一緒に雰囲気をもさらに盛り上げました。

各町の世界人や壮者会の活躍で、3日間、無事まつりを遂行することができました。

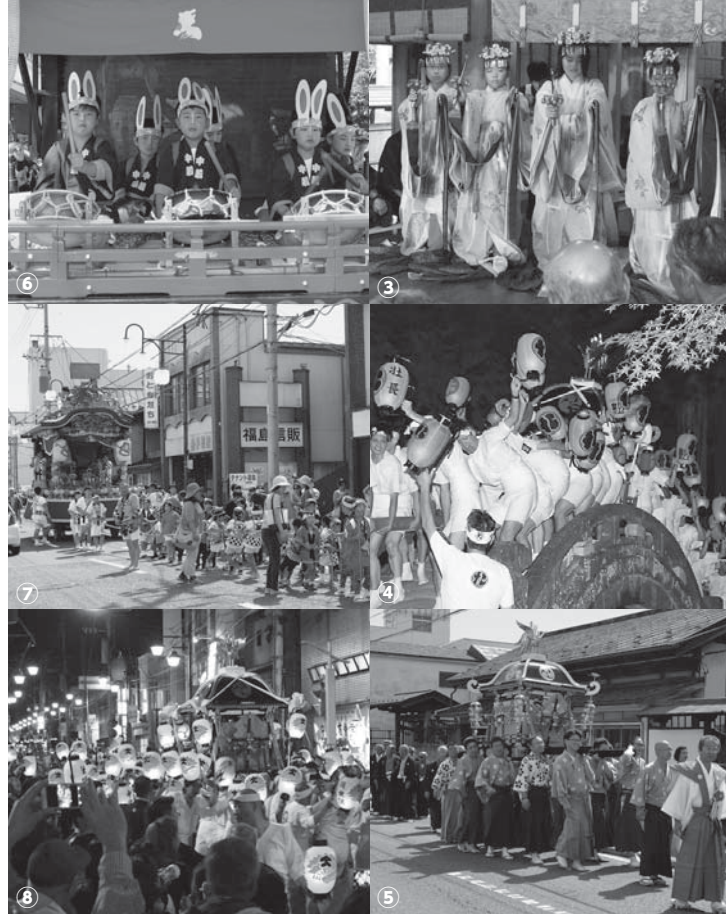


まつりの将来を見据えた活動

宮本壮者筆頭 水野谷和聖さん

まつりの進行は、壮者会の人たちが中心となって行っています。出発前には、全町の進行責任者が集まり注意点の確認を行うなど、全町が共通認識を持って臨んでいます。そのかいあって無事にまつりを終えることができました。

白河提灯まつりは、伝統を大切にしている部分もありますが、大人から子どもまで楽しめるまつりでもあります。このことを伝えようと昨年は白三小、今年は白一小・白二小・みさか小で出前講座を行いました。今後は、表郷・大信・東地域でも出前講座を行っていきたいと思っています。



- ① 幻想的な神輿の渡河
- ② 総町整列による初めての出発 (14日)
- ③ 拝殿の神事 (浦安の舞)
- ④ 神橋を渡る神社神輿
- ⑤ 町内を渡御する神社神輿
- ⑥ お囃子を奏でる子どもたち
- ⑦ 山車を引く子どもたち
- ⑧ まちなかを練り歩く神輿

◎特集 白河提灯まつり

白河が熱く燃えた3日間

9月12日から14日まで、白河提灯まつりが開催され、勇壮な行列と幻想的な提灯の明かりが、観客を魅了しました。

今月号では、3日間の熱い様子を写真やインタビューでお届けします。



歴史と伝統を現代に

白河提灯まつりは、徳川家綱時代・藩主本多能登守忠義が神輿を鹿嶋神社に寄進したことから始まり、武家社会の格式を取り入れた独特の儀式まつりです。約350年の歴史と伝統を現代に受け継いでいます。

初日は鹿嶋神社から御旅所(桜町)まで、2日目は一番町から九番町に総町(まつりに参加している23町)が整列して出発し御旅所まで、3日目は横町から向寺に総町が整列して出発し鹿嶋神社まで、約8,000個の提灯が織り成す幻想的な明かりが行列となつてまちを照らしました。

また、日中は、各町の山車や屋台を子どもたちが引いて練り歩いたほか、2・3日目に神社神輿の町内渡御も行われました。

初めての試み

昨年の10月から5回、総町の代表4人で検討会を行いました。観客に楽しんでもらうこと、そしてスムーズに進行

の決議機関である総町参会に提案し、決定され、今回のまつりで実施することになりました。観客からは、神輿の来る間隔が短くきれいで良かったなどの感想がありました。

多くの方にまつりをPR

前回同様、今年も初日から最終日まで3日間に渡り、まつりの模様がUst白河によりインターネットで生中継され、日本各地の方にご覧いただきました。視聴者からは、「転勤で白河を離れましたが、まつりの様子を見て故郷を思い出し、元気をもらいました」など多くのメッセージが届きました。

また、まつりをPRするため、本市の友好都市である三重県桑名市や埼玉県行田市をはじめ県内外の首長や議会関係者の皆さんを招待しました。鹿嶋神社での神事や勇壮な提灯行列を目の当たりにし、まつりのすばらしさを肌で感じ感動したとの声をいただきました。

◎白河まつり振興会(公財) 白河観光物産協会内) ☎②1147